

地震に備える

東日本大震災発生から5年。文部科学省の地震調査研究推進本部地震調査委員会によると、南関東地域でマグニチュード7クラスの地震が発生する確率は30年間で70パーセントと推定されています。

市では、災害協定を締結し、官民の連携を進めるなど、地震発生に備えた対策を行っています。各家庭や地域においても、地震への備えについて今一度考えてみませんか。

☎704-0065地域防災課

公助 災害協定の締結

現在123の企業や団体などと災害時の救護・救援の他、情報伝達や物資輸送、避難場所の提供など、さまざまな分野について官民の連携を進めています。また、今年度はコストコホールセールジャパン(株)や株セブン-イレブン・ジャパンと災害時の食料品等物資の供給等の協定を交わしました。



▲長野県の大雪時に物資を供給する様子
(写真提供:株セブン-イレブン・ジャパン)

自助 避難場所の確認

避難場所や避難所を地域防災課や行徳支所総務課、各公民館などで配布の「減災マップ」で確認しましょう。なお、1月には市川市国際交流協会が日・英・中・韓国語対応の防災ガイドブック「多言語防災ガイドマップ」を発行しています。



「減災マップ」や
「多言語防災ガイドマップ」▶

自宅から離れた場所(市外など)で地震が起きたら

大規模災害時には、公共交通機関が運行を停止し、帰宅が困難になることが予想されます。その際には、むやみに移動せず、落ち着いた行動をとりましょう。

- 身の安全を確保し、職場や集客施設などの安全な場所にとどまる。
- 交通情報や被害情報などを入手する。
- 災害用伝言サービス(171)など、家族との安否確認の方法や帰宅経路などを確認する。
- 携帯ラジオや地図を日ごろから持ち歩く。

昨年8月に行われた帰宅困難者訓練▶



被災地を紹介

東日本大震災の被災地では今も、復旧・復興に向けた取り組みが続けられています。市では、発生直後から、物的・人的支援を積極的に進めています。ここでは、平成24年以降、人的支援として職員派遣を行っている宮城県岩沼市と岩手県大槌町について紹介します。

宮城県岩沼市

仙台市の南に位置し、江戸時代には旧街道の宿場町や、阿武隈川を活用した水運の拠点として栄えました。現在も道路・鉄道・空路など、東北における交通の要衝として知られています。



▲竹駒神社

名所 竹駒神社

承和9年、小野篁が陸奥守として着任した際に創建されました。伊達家とも関わりが深く、現在でも年間160万人の参拝客が訪れる「東北一のお稲荷さん」として親しまれています。

特産品 竹駒参道の縁起菓子

JR岩沼駅から竹駒神社に向かう参道には菓子店が数多くあり、趣向を凝らした商品を販売しています。宿場町だったころの岩沼を思わせる、素朴な味わいの和菓子をご賞味ください。

岩手県大槌町

太平洋に面し古くから近隣地域の中心として栄えた大槌には、今も多くの史跡や伝統文化が残されています。また、リアス式海岸や湧き水、希少な動植物が見られるなど、豊かな自然にも恵まれています。



▲蓬萊島

名所 蓬萊島

市川市ゆかりの作家、井上ひさし氏が共作した人形劇「ひよっこりひょうたん島」のモデルとも言われており、町のシンボリック存在です。

特産品 海の幸と山の幸

サケやワカメなどの海の幸や、町の大部分を占める山林で採れる蜂蜜やシタケなどの山の幸が豊富です。

共助 自主防災活動の実施

阪神・淡路大震災では、倒壊した家屋のがれきの下から救出された人のうち、約8割が家族や近所の人により救助されました。この地域の防災活動を支援するため、市では講演会への講師の派遣や防災訓練への資機材の貸し出しの他、自主防災組織の防災資機材の購入・修繕費用の一部に対して補助金を交付しています。

事例紹介 新田2・3丁目自治会

▶新田2・3丁目自治会
防災部長 福田氏



自治会内の防災対策強化のため、昨年自主防災組織を再結成しました。結成後、市の補助金制度を利用し、リヤカーや防災倉庫、ジャッキなどを購入。これらの資機材を使い、昨年8月には子どもを含む70～80人で防災訓練を行うなどの活動を行っています。今後は人の救助など、より実践的な訓練を行い、いざという時に備えたいです。



▲リヤカーはコンパクトに畳め、防災倉庫に保管できる

自助 自宅の備え

家具などの固定や建物の耐震化

家具をL字型家具や突っ張り棒などで固定し、転倒を防止する他、木造戸建て住宅およびマンションの耐震診断や耐震改修、危険コンクリートブロック除去、あんしん住宅助成制度などの市の助成制度を利用し、地震に備えましょう。



▲住宅の分電盤(写真)に増設し、地震による電気火災を防ぐ「感震ブレーカー(分電盤タイプ)」も、平成27年7月から新たにあんしん住宅助成制度の対象に。

備蓄品や非常持ち出し品の確認

食料や飲料水などの備蓄品や懐中電灯・携帯ラジオなどの非常持ち出し品の確認をしましょう。



緊急情報の収集方法を確認しよう

- 防災行政無線(防災行政無線テレホンサービス(☎0180-994-889)でも放送内容を確認できる)
- 市公式Webサイト
- 市公式ツイッター、フェイスブック
- 携帯電話各社の緊急速報メール
- メール情報配信サービス(登録方法は右記参照)
- テレビ(J:COM市川/デジタル11ch)
- ラジオ(いちかわエフエム/83.0MHz)

メール情報配信サービスの登録方法

entry@ichikawacity.jp

または右記のQRコードから空メールを送信し、送られてくるメールに記載されているURLをクリックしてください。配信項目は、登録後に変更できます。なお、メールの受信には通信料がかかります。

☎334-1107広報広聴課

